

## 総務生活委員会会議録

- 1 日時 令和6年11月5日(火曜日)  
開会 午前 9時57分  
閉会 午前10時49分
- 2 場所 第1委員会室
- 3 出席又は欠席した委員の氏名  
(出席) 委員長 山田雅徳 副委員長 岡崎亨一  
委員 森安健一 委員 三宅啓介  
" 高谷幸男 " 津神謙太郎  
" 山口久子 " 剣持堅吾  
(欠席) なし  
(その他出席者) なし
- 4 職務のため出席した議会事務局職員の職氏名  
議会事務局長 西村佳子 同次長 宇野 裕  
同主任 東 宗利
- 5 説明のため出席した者の職氏名  
副市長 中島邦夫 政策監 難波敏文  
秘書室長 丸野裕子 総合政策部長 梅田政徳  
政策調整課長 林 啓二 市政情報課長 難波孝次  
総務部長 内田和弘 総務課長 小川 修  
総務課主幹 藤原 優 財政課長 岡 真里  
財産管理課長 林 琢也 市民生活部長 平田 壯太郎  
政策調整課長 林 啓二 市民課長 小野 美千代
- 6 調査事項及び報告事項その結果  
調査事項  
(1) 総合窓口について  
報告事項  
(2) 新庁舎建設工事の進捗について
- 7 調査及び報告の概要  
別紙のとおり
- 8 その他必要な事項  
別紙のとおり

開会 午後1時9分

○委員長（山田雅徳君） ただいまから総務生活委員会を開会いたします。

本日の出席は8名全員であります。

これより、所管事務調査を行います。

この後、議会事務事業評価の調査に入ります。各委員から提出いただいた対象事業の評価シートを取りまとめたものを配付していますので、休憩中に各対象事業について各委員の評価内容を御確認ください。

しばらく休憩をいたします。

休憩 午後1時10分

再開 午後1時21分

○委員長（山田雅徳君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

それでは、調査事項の1、ふるさと納税について（議会事務事業評価）の調査に入ります。

調査事項の調査に当たり、私より申し上げます。

本日は議会事務事業評価を行うため、お手元の議会事務事業評価シートにより自由討議を行い、委員会としての評価を決定するよう考えております。

それでは、評価シートを基に自由討議を行いたいと思います。

まずは私から発言をいたしますが、お手元に配付のそれぞれの評価シートの順にお願いができればと思います。

それでは、ではまず私から申し上げます。

まず（1）、「市民ニーズ」についてですけれども、「どちらかといえば必要性が高い」15点としております。評価のコメントとしては、ふるさと納税はどちらかという歳入の話であろうかと思っておりますので、市外からの寄附金を獲得することで、その結果市民サービスの充実が期待できるというふうに評価をいたしました。

（2）、「市が実施する必要性」について、15点としております。これについては、私は外部に委託できるものは積極的に外部に委託することで、市の担当者の業務の軽減をしていただいて、さらにその事業の充実ということに注力をしていただきたい、そういったことで15点としております。

（3）、「費用に見合った効果」につきましては、「効果的である」20点としております。寄附金額、寄附の件数ともに増加傾向でありますので、効果的であると考えております。

（4）、「目標の達成状況」についてですけれども、「成果がある」20点としております。先ほども申し上げましたけれども、寄附金額自体は増加傾向にあるので、引き続き本市の魅力アップにつなげていただきたいということでもあります。

合計点数は70点、全体評価は評価4でありますので、「おおむね適正である」ということでもあります。

今後の方向性については、「改善し継続する」4点、予算規模は「現状維持」の3点、評価理由としましては、先ほども申し上げましたけども、事業自体はおおむね良好であると考えておりますが、外部との連携や人員体制をさらに強化していただく、魅力ある返礼品の選定など、そういった作業にさらに改善を期待したいというふうに思っております。

改善・提案の内容は、市の職員の事務負担を軽減し、今後の作戦を練るなど、そういった業務に集中していただくためにも、外部との連携をさらに強めていただきたいということにしております。

以上です。

では次に、岡崎副委員長、お願いします。

○委員（岡崎亨一君） 私の評価シートの報告をさせていただきます。

（１）、「市民ニーズ」は、トータルで7億円以上のふるさと納税を頂戴しているところからいいますと、一般市としては十分に値する成果を上げていると言えるのではないかとということで25点としました。

（２）、「市が実施する必要性」は、私は職員の体制改革を望むと、外部委託するなら職員を増やすのかというところで、今までそういった御意見の方もおられましたけども、そんなふうに思っております。

（３）、「費用に合った効果」というところで、やめていく、生産をされていないものもありましたけれども、総社市を体験するメニューの開発をできればなど。それが結局定住・移住にもつながってくる可能性があるのかなというところで思っております。

それと、（４）、「目標の達成状況」でありますけども、様々な、これも全国的にそうですが、総務省の通達が変化していく中で、トータルとして非常に税収に貢献をしているというところで、極めてとまでは行きませんが、成果はあるということで20点としました。

トータルは80点で、そこで一応「適正である」に含まれるので、評価としては5点としました。

今後の方向性としましては、事業内容としては「改善し継続する」の4点、これは特に先ほど申し上げた体験するメニューですとか職員の体制改革ですとか、その辺がありますので4点としました。

また、予算規模としましては「拡充する」になっております。外部委託するのか、それとも職員を増やすのかによると、そこでも分かれるなど思っておりますので、そうなるとその分の予算が増えるのかなというふうには思っております。

評価理由としては今まで上げたとおりでございます。

以上です。

○委員長（山田雅徳君） では次に、森安委員、お願いします。

○委員（森安健一君） 私のほうですけども、評価項目の（１）、「市民ニーズ」のほうなんですけども、評価として「ニーズが高い」ということで20点とさせていただきました。このニーズが高

いというのが、ニーズになっているのかどうかあれなんですけども、市民のニーズというよりも生産者のほうが非常に市内ブランドに力を入れていただいて、誇りを持っていただいているということで、全然違うことかもしれませんが、そのような評価をさせていただきました。

(2)、「市が実施する必要性」ですけども、「極めて必要性が高い」ということで25点とさせていただきました。市自体で実施をしていただいているので、外部委託は僕としては必要じゃないんじゃないかなと。人員も2人でやっているということで、かなり頑張ってもらっているということで、それ以上の人員を増やしていただいたらもっといいのかなということで、頑張ってもらっているなという評価をさせていただきました。

(3)、「費用に見合った効果」ですけども、決算額でも7億円以上のふるさと納税のほうを得ている、県内でも上位に匹敵するというのでかなり頑張ってもらっているということで、25点ということでさせていただきました。

また、(4)、「目標の達成状況」ですけど、これも評価点は25点。総社産返礼品だけで達成状況はかなり重大だというふうに捉えまして、今後さらに違う品目で拡大していく必要があるんじゃないかなということなんですけども、今時点では成果があるんじゃないかなということで、25点をつけさせてもらいました。

合計で95点で、全体の評価を5点ということで、今後の方向性としても「拡充する」5点、予算規模も4点ということで、かなり高めな評価をさせていただきました。

評価理由として、市と生産者が一丸となってふるさと納税の納税者の方に返礼品を届け、市のアピールがスムーズに執り行われているんじゃないかなということで、もっともっとこれからも頑張ってもらいたいというふうに思います。

また、改善・提案なんですけども、先ほどから市の職員が2人ということで、いろんな対応、クレーム対応もしていただいているということで、その分を加味して、もっとスムーズにふるさと納税のほうの運営ができるように人員を増やしたらどうかなということで、記載させてもらいました。

以上です。

○委員長（山田雅徳君） ありがとうございます。

では続いて、三宅委員、お願いします。

○委員（三宅啓介君） 上から順に(1)、「市民ニーズ」、これは当然ここにも書いてあるんですけども、自主財源を確保するというこの事業の目的が一つと、先ほどほかの委員もおっしゃられていましたけども、返礼品に関わる、例えばお米であればお米の農家の支援という点で、これは十分ニーズがあるというふうに考えてよいと思っております、これは「ニーズが高い」という評価をさせていただきました。

(2)、「市が実施する必要性」、これに関しては私も外部委託、これはありではないかなというふうに考えております。これは当然全てではなくて、部分的なところで、企画立案であるとか運

営の中心は当然市がやるんですけど、事務的作業であるとか、そういう部分では外部委託できるところはやっていけばいいんじゃないかというふうに考えてはいます。

(3)、「費用に見合った効果」、これはもう収支からも極めて効果的であるというふうに判断しております。

(4)、「目標の達成状況」も「極めて成果がある」と、これは結果が出ているので成果があるというふうにしておりますけれども、一方で気になるところが、やはり総社市民が他市へふるさと納税をしている額というのが年々増加傾向にあるので、これはどうしても現状維持ではもう駄目で、これはどうにかして拡大していく方向で頑張らないといけないという、お金の入りを増やすという点でもそういうふうに思っているので拡充という点と、もう一方でちょっと矛盾するかもしれないんですけど、一方でふるさと納税の制度を利用して総社市をPRして、先ほどほかの委員もおっしゃられていましたけど、移住政策であるとか、PRに絡めて総社市に興味を持ってもらうという政策も一部考えないといけないというふうに思っております、トータルで評価すると評価5ということで、今後の方向性は拡充すべきではないだろうか、予算規模も拡充すべきだろうというふうに考えております。

評価の理由は、先ほど言ったような収支状況は黒字ですけど、黒字で財源確保に寄与している現状があります。返礼品であるお米については補助金を出して地元の農家に対して高額の買取りを実施して、地元農業に対しても貢献しているところは非常に評価できると。また、寄附してくれた方に、総社市のPRもパンフレットを入れたりだとか一定程度やっているもので、魅力アップにもつながっているというところで評価していますよというところです。改善点は、先ほど言いましたように、もっともっと返礼品を発掘して、ふるさと納税の担当職員の仕事内容や状況であるとか、貴重な財源確保という重要さを考えると、職員を増加させるという考え方で行くのか、もしくは外部委託ができるところは検討し直すと、効率的にもっとやっていくべきではないだろうかというところで、単に税収増だけでなく魅力アップや観光政策、移住政策、ほかの政策との連携も視野に取組を今以上に検討すべきかなというところで評価をしております。

長くなりましたけれども、以上です。

○委員長（山田雅徳君） ありがとうございます。

では次に、高谷委員、お願いします。

○委員（高谷幸男君） お手元にお出ししている資料に、(1)、「市民ニーズ」というのは、これはもう分かりません、はっきり言うて。費用でないので非常に難しいかなと思うんですけども、多くの市民が他の市町村あるいは県へ多額の寄附をしておるというのがあるわけです。住民税の減額にもなっておりますし、希望商品の返礼品とか目的がある方がされておるようですけれども、市民のニーズをこっちが捉まえるのは難しいかなという感じがしております。ただ、市民の参加がどの程度、何人ぐらいおられるのかよく分かりませんが、横浜市は300億円減額、名古屋市が177億円、大阪市が167億円というような減額になっておるわけです。そうすると、総社市はどれだけ減

るというのが私も調べていないのでよく分かりませんが、そういう状況もあります。

それから、(2)、「市が実施する必要」、これはもうあるわけですが、収入ですから外部委託できるところはすべきではないかと、このように思います。財源確保がしたいので、もっともっとPRをして積極的な対応をしながら収入を増やしていくということです。

それから、(3)、「費用に見合った効果」ですが、これは納税額と収入額、これを考えると実質3分の1ぐらいしか使えないということになるわけですが、今後これをどんどん増やす必要はもちろんある。ただ、費用がどの程度節約できるかということを考えていかなければいけないんじゃないかなど。もう一つは、事務の簡素化、経費の削減、これもしながら、市民に対しての入と出の公表が必要ではないかと、こういうことを思っております。

それから、(4)、「目標の達成状況」ですが、これはもう成果があるわけですから、やっていく必要がある。ただ、目標というのはなかなか難しいわけで、これからPRしながらもっともっと増やしていくということで、トータル的には85点というふうにしております。

全体的には5の「適正である」と。

そして、今後の方向性は拡充する必要がある、PR等々の関係で必要がある。

それから、予算規模についても、人員配置であるとか、寄附金の増額がある、あるいは経費の削減、PRの経費であるとかというようなことを含めると、総体的には拡充していかなければならないんじゃないかということです。

この85点の評価を出したのは、全国的には企業版ふるさと納税の関係が469億円、宮城県、岡山県、総社市とあるわけですが、まだまだ総社市の場合も企業版を増やしていく必要がある。そして、ふるさと納税、災害とか企業版、こんなものを全部含めて7億6,600円ですから、もっともっと増やす必要があるということです。

それから、評価の理由ですが、2023年の全国的な数字は1兆1,175億円ということであって、本市にも7億6,000万円ほど入ってくる。PRが役立っていると思いますけども、まだまだ全国トップレベルの都城市の193億円、紋別市が192億円、こんなことはできませんが、財源確保のためにPRが必要であるというふうに思っております。

それから、改善点ですが、全国的に取り組んでいる事業であって、総社市の個人とか企業のPRをもっともっとする必要がある。特に、全国の友人、知人、親族等々へ紹介しながら、市内の企業の本社とか、市外へある、県外へある、そういうところへももっともっとこの制度を理解してもらって、協力依頼をして積極的に取り組む必要があるんじゃないかと、こういうことを思っております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） ありがとうございます。

では次に、津神委員、お願いします。

○委員（津神謙太郎君） 上から、(1)、「市民ニーズ」のほうからお話をしたいと思います。

どちらかといえば私はニーズが低いというのが、私が一番よく聞くのは生産者の方から、特にプライドとといいますか、自分が作ったものというふうな思いでもっと売ってくれないかというのが大体あるんですけど、それが岡山県産の朝日米を一生懸命作っている中で、ほかの品種がたくさんあるんですけども、その人はやはりそういったものを自信を持って作っているから、そういったものをもっと売ってくれないかという意見を聞いたことがありますので、やはりそういったことを考えると、市民の皆さんと生産者のニーズが違うところもあるのかなという思いで、評価が低めなんですけど、10点とさせていただきます。

(2)、「市が実施する必要性」なんですけども、そういった農家、生産者との話を基に、市の職員ももう少し頑張っていたきたいというのがあるんですけども、そういった意味でも必要性が高い、そうしてほしいというのがあります。

そして、(3)、「費用に見合った効果」というものですけども、どちらかといえば効果があるというふうには思っております。こちらのほうも、これも職員に負担がかかるんですけども、市外、県外のほうに回っていただきたいなというふうに思っております。

それと、(4)、「目標の達成状況」こちらのほうもどちらかといえば成果があるというふうに思っております。

全体的な評価としましては、おおむね適正であるという部分なんですけども、先ほど言ったようにお米ですとかブドウもそうです、桃もそうですけれども、生産者の方が自信を持ってやっているものなんだと、もっと売ってほしいという意見を私は以前聞いたことがありますので、もう少し頑張っていたきたいなというふうには思っております。職員も頑張っていますので、引き続きやっていただきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（山田雅徳君）　ありがとうございました。

それでは次に、山口委員、お願いします。

○委員（山口久子君）　(1)、「市民ニーズ」のところですが、3番目の評価点が15で、ニーズの理解をしっかりとしてほしいということです。

それから、(2)、「市が実施する必要性」という部分で、評価点も15、どちらかといえば必要性が高い、市が実施することで市民が安心して協力できると思うというところがあると思います。

それから、(3)、「費用に合った効果」ということで、3番目の「どちらかといえば効果的である」15点。市民が効果を理解できるのではということです。

それから、(4)、「目標の達成状況」ということで、3番目で「どちらかといえば成果がある」15点で、こつこつ一歩ずつ進めてほしいということで、合計点は60点、全体の評価は4点。

今後の方向性4、そして予算規模3。

評価理由は、自分たちが住んでいる地域を大切に考えられるのではないかと思います。

改善・提案内容が書けていないんですけど、以上です。

○委員長（山田雅徳君） ありがとうございます。

それでは、剣持委員、お願いします。

○委員（剣持堅吾君） 大前提は、7億6,000万円の納税があるということで、評価するものが大前提でございます。それと、もう一つは全国的に有名な特産品もないということの、でも7億6,000万円という、職員が大変努力をしているんだなという思いでいます。

（１）、「市民ニーズ」をどのように把握しているかということについては、私は大変高い評価をして、25点を上げています。

それから、（２）、（３）、（４）と続くのは、一番下の評価理由、改善・提案内容とダブるんですけど、（２）、「市が実施する必要性」については外部委託等も考えられるが慎重に検討、

（３）、「費用に見合った効果」は社会状況もあるので一概に評価はできないというのが、これは決算額のこととございまして、社会状況が変化するということから一概に評価はできない。

（４）、「目標の達成状況」についても、事業拡大をすべきと考えるが、スタッフに限りがある、慎重にというのは、評価に書いていますが、限られた職員の中でやるということについて、納税額を上げるために職員を何ぼでも増やすということにもならんということで、スタッフにも限りがあるので慎重にしていかなといかなと。その中で、一つは中間事業者、外部委託も考えればいいけど、これを無造作に考えていったときに、職員のやる気が出るか出ないかということも十分考えて、ここを検討していくのが大事かなというのが私の全体的な評価でございます。

以上です。

○委員長（山田雅徳君） ありがとうございます。

今、各委員から発表をしていただきました。

次に移ります。

それでは、各委員の評価を基に、委員会としての評価を取りまとめたいと思います。本件についての御意見はありませんということで、一旦休憩をいたします。

休憩 午後1時46分

再開 午後2時28分

○委員長（山田雅徳君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

では、これより自由討議を行っておりますけども、委員会としての評価というものに対して御意見をお願いいたします。

三宅委員。

○委員（三宅啓介君） （１）、「市民ニーズ」の件ですが、委員会の各委員の評価が、「極めてニーズが高い」という方がお二人、「ニーズが高い」という方が3人、「どちらかといえばニーズが高い」という方がお二人、「どちらかといえばニーズが低い」という方がお一人という結果が出ておまして、これは大方ニーズはあるというふうに判断していいのではないかというふうに思いますので、委員会としてもちょうどこの間を取って②番の「ニーズが高い」という評価でいいので

はないかなというふうに思っております。

また、評価コメントですけれども、やはり財源確保によって市の政策にこの予算が活用され、それが市民生活に反映されているという点からも、これはニーズが高いと言えると思いますし、また市内の産品であるとか、農産品の返礼という点では、地元の事業者であるとか、農産物の生産者の方々への支援にもつながっております、その点からもニーズが高いというふうに言えるかと思っておりますので、コメントとしてはそのように記載すればいいのではないかなというふうに思っております。

以上です。

○委員長（山田雅徳君） ありがとうございます。

他にありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山田雅徳君） じゃあ、（１）、「市民ニーズ」についてはそういった御意見をいただきましたので、次に市が実施する必要性について御意見があればお願いいたします。

岡崎副委員長。

○委員（岡崎亨一君） （２）、「市が実施する必要性」につきましては、委員の方からの評価は①「極めて必要性が高い」がお二人、②「必要性が高い」が３人、③「どちらかといえば必要性が高い」が３人という結果になりまして、皆さんの御意見を集約させていただくと、業務的に外部委託ができるかどうか職員負担軽減で検討をしていただきたいと。そうする中によって、市の職員が特に商品開発に注力をしていったほうがより効果的ではなからうかという点で、③の「どちらかといえば必要性が高い」ということになって、15点という意見の集約を得たところでございます。

以上です。

○委員長（山田雅徳君） ありがとうございます。

他に御意見は、これについてありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山田雅徳君） では、次、（３）、「費用に見合った効果」について御意見があればお願いいたします。

岡崎副委員長。

○委員（岡崎亨一君） （３）、「費用に見合った効果」につきまして報告をいたします。

御意見としましては、①「極めて効果的である」がお二人、②「効果的である」が４人、③「どちらかといえば効果的である」がお二人というところで、特に令和５年度に至っては前年度より寄附金額も増えておりますし、他市への納税者も増えておるんですが、実質的にはトータルとしまして２億６,０００万円ほどの黒字でございます。ですから、非常に寄附金額、寄附件数ともに増加しておりますので、極めてとまでは言いませんけれども、効果的であるというふうに評価ができると思

まして、②の「効果的である」20点という意見でございます。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） ありがとうございます。

この件に対してほかに意見はありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山田雅徳君） では、（４）、「目標の達成状況」について御意見があればお願いいたします。

三宅委員。

○委員（三宅啓介君） （４）、「目標の達成状況」についてですけれども、これも委員全員の御意見をお聞きしまして、「極めて成果がある」という方がお二人、「成果がある」という方が４人、「どちらかといえば成果がある」という方がお二人ということで、これはトータル成果があるという判断を皆さんしてございまして、委員会としてはちょうどこの「成果がある」が４人おられますので、この「成果がある」というところを委員会の評価とすればいいかなというふうに思っております。

また、評価のコメントとしては、やはり寄附金額が増加傾向にあるため、引き続き本市の魅力アップにつなげていただきたいということと、引き続き新たな返礼品の発掘を行うということが一つ重要なことであると同時に、やはりこのふるさと納税の制度を活用して、総社市のPRをもっと行って、移住政策と絡めて人口増の政策につなげられるような、そういうような返礼品も検討していくことが重要だというコメントをもってまとめたらどうかなというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

○委員長（山田雅徳君） ありがとうございます。

この件に対して何か御意見はありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山田雅徳君） ありがとうございます。

それでは、一旦休憩いたします。

休憩 午後２時35分

再開 午後２時36分

○委員長（山田雅徳君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

委員会の評価といたしましては、個人ですけれども、「適正である」が５人、「おおむね適正である」が３人ということでありました。そこで、委員会の結論としては75点という点数でありますので、「おおむね適正である」ということで、４ということになりました。

このことについて皆さん、この結論に対して皆様どう判断されますか。御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山田雅徳君） では、全会一致ということで、ここは１の「全会一致」というふうにい

たします。

評価コメントといたしましては、自主財源の確保という点でも、このふるさと納税というものはしっかり結果を出した事業でありますので、今後も外部委託であるとか職員の増員であるとか、そういったところにも目を向けていただきたいということを評価コメントにつけさせていただきます。

この総務生活委員会では、全会一致でこの制度が適正であり、拡充をするべきであるという結論に達したということのコメントをつけさせていただきます。

そして、最後、今後の事業に対する提案というところでありますけれども、総務生活委員会では、「改善し継続をする」4番とさせていただきます。

予算規模に関してですけれども、ここは人員増員であるとか外部委託ということを考慮いたしますと「拡充する」ということを提案させていただきたく、こちらはどちらも4ということにさせていただきます。

そして、最終的な理由をつけさせていただきますけれども、このふるさと納税自体の事業はおおむね適正であると考えております。であります、市の職員を増やす、外部委託などをすることを勘案しますと、この予算の拡充というものをすべきであるというふうに考えます。

また、総社市民による他市へのふるさと納税が増加傾向にあるという現状を踏まえ、このふるさと納税の事業展開というものは拡大しなければ、結果的に収支が赤字になっていくことが予想されております。ですので、引き続き新たな返礼品の発掘を行っていただきたいと、そのように思っております。

また、農産物の生産者をはじめとして、事業所ともこれまで以上に密接にヒアリングなどして、ニーズを把握していただいて、さらなる連携を図っていただきたいということも最後につけさせていただきます。

ということを理由としてつけさせていただきますが、それでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(山田雅徳君) 分かりました。

また、字句等はまた調整をさせていただきたいと思えます。

ですので、本委員会としての評価結果というものは最終的に、事業内容は「改善し継続する」、予算規模は「拡充する」といたしました。

その評価とした理由は、先ほど申し上げました。その他の意見を踏まえて、委員長において集約することとさせていただきます。

では、先ほど御異議なしということでありましたので、このまま進めさせていただきます。

なお、委員会としての評価結果は、今後開催される予定であります全員協議会に報告をさせていただきます。

以上をもちまして、本日の調査事項は全て終了いたしました。

これもちまして、本委員会を閉会いたします。

閉会 午後2時36分

総社市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに押印する。

総務生活委員会委員長 山田 雅徳